

天長節の式に列席するので、君が代及び校歌は全校生徒が歌ふ故に、自分だけ勝手に聲を張り上げて大聲に歌はぬ様に注意する。

天長節の歌

これは先生が歌つて聞かせる。

遊戯 二回

種まき

自由表現(幼児の教育三十三卷十一號参照)

談話

第一週

一年長組の談話の配列は、新入園の時のやうに嚴密にする必要はない。一年を通して見れば、自らそこに選ばれてゐるわけであるが、一つ一つは時に前後しても差支はない。

幼児もきゝ手こしての態度は、年少組の一年の間にすでに養はれてゐるので、年長組になつたから云つて、更めて注意することもない。たゞ、いつもくゝきゝ手こいふ定

第四週

唱歌 二回

エンソク(エホンシャウカ ハルノマキ)

少しテンポを早め軽やかに歌ふこと。

遊戯

エンソク(子供の舞踊(一)参照)

型をほぐしていつて、いろいろの場合に幼児が話し手になる機會を少しづつ作つてゆきたい。

アリバ、

アラビヤナイト中の四十人の盜賊隊として、かなり傳へられてゐる話であるから、二三聞いてゐる幼児もあらうこと承知して話す。主眼は四十人の盜賊隊の活動であるが、幼稚園ではアリバ、の考や、して來た事を主とする方

がい。神秘的な洞穴の開閉が最も興味深く、且つ冒險的要素を多分に含んでゐるので、殊に男兒には面白いらしい。

盜賊を悪者わるものとして扱つておく。泥棒どろぼうさいふ言葉は、怖いさいふよりもむしろ秘密の面白い存在として、思ひがけなく自由遊びの時に影響する例もあるので、この言葉は用ひたくない。

釋迦

お釋迦さまの誕生日四月八日に關聯して、こゝに掲げたのであるが、實際としては小學入學直前に用ひる方がよい。他の多くの談話材料は宗教味を含むものが比較的少ないと思はれるので、この意味でかういふ材料を是非入れて置きたい。

第二週

まぢがひ

ばかげた普話で、材料そのものは特にきこがさうな推賞する價值があるわけではない。然し、幼稚園で用ふるさいふので、兎に角何でもよいさいふわけにはゆかず、選びに選んだ結果、かうしたばかげた意味のない話は、追々失は

れてゆくやうな氣がする。談話の目的は他の多くの材料で、十分に達せられるから、たまにはこんな話も加へる方がよい。

猿蟹合戦、動物のおぎり（人形芝居）

この場合は多く新入園兒を迎へて見る時であるから、今迄に養はれて來た見物人としての作法は知つてゐる筈。それを忘れないように。猶年少組の世話なごさせるのもよい。

第三週

天長節のお話

前日に、明四月二十九日は天長節であること、如何いふ祝日である事、かういふ日には各家で國旗を出す等、理解し得られる程度に靜かに話しておく。當日は式にも列ること故、話は前日にしておく。

靖國神社の話

例祭當日は休園であるから、神社の場所、誰を祭つてあるか、何故祭るか等を、前日にかなり委しく話しておく。

年長組になれば、保育案に盛りられた材料の外に、随時に

時事話、觀察話をする折が少なくない。面白い話は話し手がさう苦心しないでもよく聞くが、時事話、觀察話はなかなか話しにくいものである。然し、斯ういふ話も、靜かにきくやうにしてゆきたい。常々きいてゐる話の上手な先生

觀察

第一週

ミカゲ

驚異に満ちた子供の眼を瞳らせるものゝ多いこの時候に、庭の隅にたま／＼ぶつかつたのがこのミカゲなのである。こゝに保育の機會捕捉、觀察の機會捕捉の意味がある。出てくるものが蛇であつたら蛇を、蛙だつたら蛙を觀察させる事は言を俟たない。

蜥蜴類(爬蟲類)の一種で、成長したものは體長凡二十厘米、尾が長く尖る。この尾はきれても再生するものである。同種類のかなへびさよく似てゐるがミカゲの縞は背面は暗緑褐色に鮮綠縦線三條、側面淡綠色、腹面淡黃褐色で日光

の話なら、よく聞いてゐるさいふこまは、さういふ方法さいつて、具體的に説明はしにくい、それは幼兒さ暮してゐる間に自ら會得することであつて、又些細な時にでも、これを會得しよう、それさなく心がけてゐなければならぬ。

に照されるミ綠色ミ銀色の縞に光つて見える。かなへびの方はミカゲより尾部細長く色は背が褐色、側面黒條下に白條があり腹面淡黃褐色で雄は尾の基部太く先尖り、雌は基部細く先が鈍く後肢が短いのである。

草叢の日だまりにはひ出てぢつミしてゐるのを、こちらもぢつミ眺めてゐるこども達、蛇の様だ、わにの様だ、やもりの様だ、ミ言ふかも知れない。ミカゲの四本の足に注意させる。そして蛇ミのちがひを、又縞の色に注意させる。親類ミして圖によつたり、標本によつたりして、わに、やもり、へび、大ミカゲ等をみせやう。けれど生けぢつてかふ事には不適當である。